

丹鶴叢書

草根集 六

093.1
2006
佛教大学図書館
2005494801





草根集第六

次第不同

戀部

初

恋たふ袖のさのさしりささるるささるるの烟さる

しりささるるのささるるささるるのささるる

かきささるるのささるるささるるのささるる

はらささるるのささるるささるるのささるる

ま案七ささるるのささるるささるるのささるる

たささるるのささるるささるるのささるる

はらのささるるのささるるささるるのささるる

菜あはるるのささるるささるるのささるる



逢 恋
 恋^{栄七}
 経年恋
 侍 恋
 侍 恋

別
 恋
 別

舊 恋 染
 恋 染

老後初恋

老後初恋 恋の心は老後にもあらずに若くして

幼恋

幼恋 幼少のころに恋ひしは 後用(後)の心

浅初恋

浅初恋 浅く初めたる恋は 後(後)の心

聞恋

聞恋 流(流)の心は恋ひしは 後(後)の心

三聞恋

三聞恋 三(三)の心は恋ひしは 後(後)の心

契恋

契恋 契(契)の心は恋ひしは 後(後)の心

契恋

契恋 契(契)の心は恋ひしは 後(後)の心

契恋

契恋 契(契)の心は恋ひしは 後(後)の心

契恋

契恋 契(契)の心は恋ひしは 後(後)の心

契恋

契恋 契(契)の心は恋ひしは 後(後)の心

契

契

久契恋

久契恋 久(久)の心は恋ひしは 後(後)の心

契言恋

契言恋 契(契)の言は恋ひしは 後(後)の心

初逢恋

初逢恋 初(初)の心は恋ひしは 後(後)の心

稀恋

稀恋 稀(稀)の心は恋ひしは 後(後)の心

毎多待恋

毎多待恋 毎(毎)多(多)待(待)の心は恋ひしは 後(後)の心

後朝恋

後朝恋 後(後)朝(朝)の心は恋ひしは 後(後)の心

後朝恋

後朝恋 後(後)朝(朝)の心は恋ひしは 後(後)の心

後朝恋

後朝恋 後(後)朝(朝)の心は恋ひしは 後(後)の心

後朝恋

後朝恋 後(後)朝(朝)の心は恋ひしは 後(後)の心

後朝恋

後朝恋 後(後)朝(朝)の心は恋ひしは 後(後)の心

夜 迄

夜迄の音はヨシキリノ音ニ似テ

掣待迄

掣待迄の音はヨシキリノ音ニ似テ

稀逢迄

稀逢迄の音はヨシキリノ音ニ似テ

詞和逢迄

詞和逢迄の音はヨシキリノ音ニ似テ

馴不逢迄

馴不逢迄の音はヨシキリノ音ニ似テ

ヨシキリノ音ニ似テ

ヨシキリ

恨不逢迄

恨不逢迄の音はヨシキリノ音ニ似テ

祈 迄

祈 迄の音はヨシキリノ音ニ似テ

ヨシキリノ音ニ似テ

三

三

人々皆云く此の山は昔の山なり

と云ふ事は其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

春

三

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

三

夏

三

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

其の山に於ては其の山に於ては其の山に於ては

三

舟宿書

冬恋

侍り女は月夜に
染み我の心は
流るる水に
忍恋

月夜に侍り女は
染み我の心は
流るる水に
忍恋

子

逢不逢恋

逢不逢恋
逐日増恋
依思増恋

丹鳥齋書

片

思

片思 *片思*

片

恋

片恋 *片恋*

思

恋

思恋 *思恋*

近

恋

近恋 *近恋*

旅

恋

旅恋 *旅恋*

旅恋

旅恋

旅恋

見手跡恋

見手跡恋

見形恋

見形恋

纒見恋

纒見恋

偽恋

偽恋

厭恋

厭恋

厭恋

厭恋

厭恋

愛 恋
 人傳 恋
 被返書 恋
 立名 恋
 子 恋

負 恋
 欲忘 恋
 歎無名 恋
 契經年 恋
 山家 恋
 契後愛 恋
 契別 恋

契久恋 小篠京の契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 変契恋 小篠京の契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 春忍恋 かきくの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 夏頭恋 名をくの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 秋頭恋 名をくの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 冬頭恋 きくじまの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 絶後悔恋 かきくの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 絶不知恋 都鳥の契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 憑妻恋 憑妻の契久恋の契久恋の契久恋の契久恋

子林

憑媒恋 神をくの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 名所恋 甲の名の契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 祈難逢恋 かきくの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 秋恨恋 ちくじまの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 不來恨恋 かきくの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋
 人傳恨恋 かきくの契久恋の契久恋の契久恋の契久恋

連夜待恋 小造の心はあはれなるに
 乍三待恋 あはれなるに
 不堪待恋 しのぶ心はあはれなるに
 待空恋 しのぶ心はあはれなるに
 顯涙恋 しのぶ心はあはれなるに
 顯後悔恋 しのぶ心はあはれなるに
 秋厭恋 しのぶ心はあはれなるに
 互恨絶恋 しのぶ心はあはれなるに

子孫

無隙恋 しのぶ心はあはれなるに
 惜別恋 しのぶ心はあはれなるに
 秋切恋 しのぶ心はあはれなるに
 心中恨恋 しのぶ心はあはれなるに
 忍久恋 しのぶ心はあはれなるに
 増恋 しのぶ心はあはれなるに
 不見書恋 しのぶ心はあはれなるに
 非心離恋 しのぶ心はあはれなるに
 逢夢恋 しのぶ心はあはれなるに

Handwritten cursive text in a rectangular frame, consisting of approximately 12 lines of dense, flowing characters.

子規

Handwritten cursive text in a rectangular frame, consisting of approximately 12 lines of dense, flowing characters.

寄木道

寄雲函

あつたての雲のうらみは

あつたての雲のうらみは

あつたての雲のうらみは

寄雨函

あつたての雨のうらみは

あつたての雨のうらみは

あつたての雨のうらみは

あつたての雨のうらみは

寄煙函

あつたての煙のうらみは

あつたての煙のうらみは

あつたての煙のうらみは

世英

寄園函

あつたての園のうらみは

あつたての園のうらみは

寄滝函

あつたての滝のうらみは

あつたての滝のうらみは

寄湊函

あつたての湊のうらみは

あつたての湊のうらみは

寄草函

あつたての草のうらみは

あつたての草のうらみは

あつたての草のうらみは

空の月見也 夜の神が月のかなはるゝ人の中を流る人なるは
 空の月忘也 日せよとまよふとあせしは後。我は其はむとあせしは月
 空の月見也 日せよとまよふとあせしは後。我は其はむとあせしは月
 空の月不逢也 まりしむとあせしは後。我は其はむとあせしは月
 空の秋風也 空の原の草の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の露也 我今流るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の鎖也 空の鎖の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の朝也 空の朝の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の花愛也 かゝりあふとあせしは後。我は其はむとあせしは月
 空の花顯也 空の花の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の花厭也 空の花の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の花絶也 空の花の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の月思也 空の月の生るるは後。我は其はむとあせしは月

子指

空の月顯也 夜の神が月のかなはるゝ人の中を流る人なるは
 空の月忘也 日せよとまよふとあせしは後。我は其はむとあせしは月
 空の月見也 日せよとまよふとあせしは後。我は其はむとあせしは月
 空の月不逢也 まりしむとあせしは後。我は其はむとあせしは月
 空の秋風也 空の原の草の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の露也 我今流るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の鎖也 空の鎖の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の朝也 空の朝の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の花愛也 かゝりあふとあせしは後。我は其はむとあせしは月
 空の花顯也 空の花の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の花厭也 空の花の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の花絶也 空の花の生るるは後。我は其はむとあせしは月
 空の月思也 空の月の生るるは後。我は其はむとあせしは月

家江恋 舟り臨やまのちのふたり持の海に染はまき子
 家潤恋 海に舟りたふちの遊給しつらんゆらゆら川流
 家原恋 ちの原に舟りしはなはなとてあつたふらふら
 家岡恋 ちの原に舟りしはなはなとてあつたふらふら
 家蘆恋 ちの原に舟りしはなはなとてあつたふらふら

手紙

家藤恋 思三しの海をわたる舟りつらん
 家萱恋 舟りつらん舟りつらん舟りつらん
 家昔恋 舟りつらん舟りつらん舟りつらん
 家雪恨恋 舟りつらん舟りつらん舟りつらん
 家菊恨恋 舟りつらん舟りつらん舟りつらん
 家思神恋 舟りつらん舟りつらん舟りつらん
 家浅茅恋 舟りつらん舟りつらん舟りつらん

宗忘叶恋

宗忘叶恋 宗忘叶恋 宗忘叶恋 宗忘叶恋 宗忘叶恋

宗栢木恋

宗栢木恋 宗栢木恋 宗栢木恋 宗栢木恋 宗栢木恋

宗宿木恋

宗宿木恋 宗宿木恋 宗宿木恋 宗宿木恋 宗宿木恋

宗益木恋

宗益木恋 宗益木恋 宗益木恋 宗益木恋 宗益木恋

宗松恋

宗松恋 宗松恋 宗松恋 宗松恋 宗松恋

宗杉恋

宗杉恋 宗杉恋 宗杉恋 宗杉恋 宗杉恋

宗栢恋

宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋

宗栢恋

宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋

宗栢恋

宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋

宗栢恋

宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋

子栢

宗捨恋

宗捨恋 宗捨恋 宗捨恋 宗捨恋 宗捨恋

宗楨恋

宗楨恋 宗楨恋 宗楨恋 宗楨恋 宗楨恋

宗楯恋

宗楯恋 宗楯恋 宗楯恋 宗楯恋 宗楯恋

宗栢恋

宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋 宗栢恋

宗桐恋

宗桐恋 宗桐恋 宗桐恋 宗桐恋 宗桐恋

宗竹恋

宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋

宗竹恋

宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋

宗竹恋

宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋

宗竹恋

宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋

宗竹恋

宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋 宗竹恋

宗鳥夢庄

またの夢みる心はたのほきほき

宗朝庄

海を渡る鳥は流るる水は流るる

宗晝庄

朝の光は朝の光の光の光の光

宗晝庄

あさひの光はあさひの光の光の光

宗文庄

あつたつたあつたつたあつたつた

宗夜庄

あつたつたあつたつたあつたつた

宗延庄

あつたつたあつたつたあつたつた

宗夜庄

あつたつたあつたつたあつたつた

宗延庄

あつたつたあつたつたあつたつた

宗延庄

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

あつたつたあつたつたあつたつた

空本結曲 こま *Ura no mizu no kumogata ni yori*
 空春曲 *Ura no haru no kumogata ni yori*
 空夏曲 *Ura no natsu no kumogata ni yori*
 空秋曲 *Ura no aki no kumogata ni yori*
 空歳暮曲 まへ *Ura no toshi no kumogata ni yori*
 空心曲 *Ura no kokoro no kumogata ni yori*
 空柱曲 *Ura no hashira no kumogata ni yori*
 空戸曲 *Ura no kado no kumogata ni yori*

子根

空車曲 *Ura no kuruma no kumogata ni yori*
 空曲 *Ura no kumogata ni yori*
 空琴曲 *Ura no koto no kumogata ni yori*

家槐俚恋 あしなむらさき
 家樵夫恋 あしなむらさき
 家筏恋 あしなむらさき
 家猪恋 あしなむらさき
 家蚕恋 あしなむらさき
 家鐘恋 あしなむらさき
 家書恋 あしなむらさき
 家繪恋 あしなむらさき

子格

家煙恨恋 あしなむらさき
 家花恋 あしなむらさき
 家杜恋 あしなむらさき
 家叢恋 あしなむらさき
 家塵恋 あしなむらさき
 家蘋恋 あしなむらさき
 家霞恋 あしなむらさき
 家星恋 あしなむらさき
 家草恋 あしなむらさき

空夢迄 村 空夢の村の 空夢の村の 空夢の村の
 空塵迄 海 空塵の海の 空塵の海の 空塵の海の
 空鳥迄 山 空鳥の山の 空鳥の山の 空鳥の山の
 空雞迄 山 空雞の山の 空雞の山の 空雞の山の

雑部 次第不同

曉天鷄 八 曉天鷄の 八の 曉天鷄の 八の
 海路暮 船 海路暮の 船の 海路暮の 船の

社頭祝 やまの山民をたしむる大あいの

嶺上松 後せん松をたしむる様のもの

山 石まの滝をたしむるもの

古寺曉 山初曉をたしむるもの

暮山松 さむく山をたしむるもの

暮林鳥宿 山木乃々のあまをたしむるもの

丹鳥叢書

夕陽映島 夕日影をこぼしけし島影のせしむる影のしにけし
 淡路のこぼれ影のせしむる影のしにけし
 名所杜 けし影のせしむる影のしにけし
 名所海 うけし影のせしむる影のしにけし
 名所浦 けし影のせしむる影のしにけし
 名所野 けし影のせしむる影のしにけし
 名所滝 けし影のせしむる影のしにけし
 白妙なるけし影のせしむる影のしにけし

子社

山路苔 太山陰水にせし苔は流るる水にせし
 芦間鶴 磯の松入江のわきわきとけし
 岩上松 うねり松のこぼれ影のせしむる影のしにけし
 山家松 せし影のせしむる影のしにけし
 山家兩 松風も雲もけし影のせしむる影のしにけし
 山家燈 けし影のせしむる影のしにけし
 山家水 けし影のせしむる影のしにけし
 人位ぬらのかげの丸本舟たぐくあまの氷にけし

水の川流の勢い
 山家鳥 籠籠の鳥と我々の鳥
 洲 鶴 夜の海に
 名所 鶴 大なる島に
 鶴 子に
 島 鶴 夕浪の村の裏に
 古寺 鐘 子を流す
 古寺 鐘 かの
 古寺 鐘 二の

三

夕 鐘 夕の鐘
 野 寺 夕 夕の鐘
 薄 暮 嵐 夕の鐘
 名 所 清 水 月の船せ
 浦 舟 舟の鐘
 舟 舟の鐘
 舟 舟の鐘
 舟 舟の鐘
 舟 舟の鐘

塩屋烟

朝夕のあはれ塔をゆくはらたけのうらたけの塔

烟をば松のおほせのうらたけのうらたけの塔

残月染越関

浪天朝のうらたけのうらたけの塔

のうらたけの月のうらたけの塔

のうらたけの月のうらたけの塔

嶺

雲

生動のうらたけのうらたけの塔

のうらたけのうらたけの塔

のうらたけのうらたけの塔

原上行人

旅人のうらたけのうらたけの塔

のうらたけのうらたけの塔

子

旅

宿

はらたけのうらたけの塔

山

旅

のうらたけのうらたけの塔

野

宿

のうらたけのうらたけの塔

野

旅

のうらたけのうらたけの塔

野

風

のうらたけのうらたけの塔

遠

樹

のうらたけのうらたけの塔

稿

苔

のうらたけのうらたけの塔

松

のうらたけのうらたけの塔

のうらたけのうらたけの塔

軒

松

のうらたけのうらたけの塔

丹鳥養書

山 家 春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

春 花 散 香 暖 日 清 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

山家

山 家 橋 山 水 流 聲 入 耳 鐘 聲 出 林 寺 鐘 聲 出 林 寺

山 家 橋 山 水 流 聲 入 耳 鐘 聲 出 林 寺 鐘 聲 出 林 寺

遊 士 出 山 月 色 蒼 茫 露 華 冷 照 空 林 鐘 聲 出 林 寺

田 家 鹿 豕 食 田 中 黍 飯 熟 香 浮 甑 老 婦 織 白 紗

鹿 豕 食 田 中 黍 飯 熟 香 浮 甑 老 婦 織 白 紗

鹿 豕 食 田 中 黍 飯 熟 香 浮 甑 老 婦 織 白 紗

鹿 豕 食 田 中 黍 飯 熟 香 浮 甑 老 婦 織 白 紗

鹿 豕 食 田 中 黍 飯 熟 香 浮 甑 老 婦 織 白 紗

鹿 豕 食 田 中 黍 飯 熟 香 浮 甑 老 婦 織 白 紗

鹿 豕 食 田 中 黍 飯 熟 香 浮 甑 老 婦 織 白 紗

鹿 豕 食 田 中 黍 飯 熟 香 浮 甑 老 婦 織 白 紗

鹿 豕 食 田 中 黍 飯 熟 香 浮 甑 老 婦 織 白 紗

曉 鷄 啼 破 曉 風 吹 柳 花 飛 絮 滿 衣 襟

水ノ位ニシテハカキルノコトノ入ルルナリ
 旅宿鶏 橋ノ下ニシテハカキルノコトノ入ルルナリ
 鶏告曉天 出ルル鳥ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 鶴有遐齡 鶴ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 野亭聞鐘 鐘ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 曉更聞鐘 鐘ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 鐘声何方 鐘ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 薄暮遠鐘 鐘ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 古 寺 櫻ノ木ノ下ニシテハカキルノコトノ入ルルナリ
 流ルル水ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ

子社

山寺池 水ノ位ニシテハカキルノコトノ入ルルナリ
 山 寺 流ルル水ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 古寺滝 滝ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 曉 雲 老ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 曙 雲 日ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 曉 我ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 曉 山 流ルル水ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ
 薄暮煙 川ノ音ノ入ルルコトノ入ルルナリ

川に舟を浮かべて海へ出るに舟人
 あるは舟を浮かべて海へ出るに舟人
 海路鳥 大舟を浮かべて海へ出るに舟人
 海路友 舟を浮かべて海へ出るに舟人
 海路 ^{旅一本} 舟を浮かべて海へ出るに舟人
 湖眺望 舟を浮かべて海へ出るに舟人
 磯浪 舟を浮かべて海へ出るに舟人
 海上雪低 舟を浮かべて海へ出るに舟人

月影の海へ出るに舟人
 蒼海雲低 舟を浮かべて海へ出るに舟人
 鷺三汀 舟を浮かべて海へ出るに舟人
 河鷺 舟を浮かべて海へ出るに舟人
 白鷺三河 舟を浮かべて海へ出るに舟人
 長河似帯 舟を浮かべて海へ出るに舟人
 水郷 舟を浮かべて海へ出るに舟人

身ミのミ邊ヘのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ
 河邊鳥 ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ
 江鳥 ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ
 江鷺 ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ
 船 ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ
 望遠帆 ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ

渾舟火 ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ
 行路市 ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ
 古郷路 ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ
 古郷草 ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ
ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ ミのミ橋ハシ

海

あまのうみはつらなるまじりてしほなるはな流るるを

水郷芦

あしののびはきりぎりすのせうせいのむらさきのさか

水郷煙

たななをたふすの鳥のこゝろはきりぎりすのせうせいの

谷水

川のせうせいのせうせいのせうせいのせうせいのせうせいの

水石鞆久

みづのせうせいのせうせいのせうせいのせうせいのせうせいの

澤水

みづのせうせいのせうせいのせうせいのせうせいのせうせいの

洄水

みづのせうせいのせうせいのせうせいのせうせいのせうせいの

暗後遠水

みづのせうせいのせうせいのせうせいのせうせいのせうせいの

水郷鷺

水郷鷺

あまのうみはつらなるまじりてしほなるはな流るるを

寄水雜

あまのうみはつらなるまじりてしほなるはな流るるを

濱楸

あまのうみはつらなるまじりてしほなるはな流るるを

古渡舟

あまのうみはつらなるまじりてしほなるはな流るるを

水郷鷺

寄水雜

濱楸

稿

あまのうみはつらなるまじりてしほなるはな流るるを

雨

旅人渡槁

槁

岸頭待舟

述懷

川流不息の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は

舟の如きはるる

老後述懷
獨述懷

舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は
 舟の如きはるる旅人の舟は

老述懷
 老述懷
 家述懷
 家述懷
 曉述懷
 懷舊
 家河述懷
 家河述懷
 曉述懷
 懷舊

老述懷
 老述懷
 家述懷
 家述懷
 曉述懷
 懷舊
 家河述懷
 家河述懷
 曉述懷
 懷舊

獨懷旧
 家花懷旧
 家灯懷旧
 闲居懷旧
 老後懷旧
 曉懷旧
 家河述懷
 家河述懷
 曉述懷
 懷舊

獨懷旧
 家花懷旧
 家灯懷旧
 闲居懷旧
 老後懷旧
 曉懷旧
 家河述懷
 家河述懷
 曉述懷
 懷舊

家海懐旧
 春雜物
 春人事
 對鏡悲老
 夢

家海懐旧
 春雜物
 春人事
 對鏡悲老
 夢

孤
 憂喜同夢
 閑居
 閑居木
 庭竹
 古郷竹
 雨中竹
 竹不改色

孤
 憂喜同夢
 閑居
 閑居木
 庭竹
 古郷竹
 雨中竹
 竹不改色

窓前竹 窓のしつ南の月
 海邊曉雲 よしきりたの流るる
 海畔雲 流るる
 海上雲 流るる
 眺望 浦を
 江亭眺望 江のほとり
 春眺望 春の
 忘 灯

子規

閑中灯
 灯欲消
 窓雨
 春筆
 春糸
 春旅
 春灯

丹鳥書

春 筵 菱 筵 ちりちり 日 暮 人 空 暮 人 空 暮 人 空
 春 車 夕 流 川 の 車 ちりちり 夕 流 川 の 車 ちりちり 夕 流 川 の 車
 松 川 筏 松 川 筏 ちりちり 松 川 筏 ちりちり 松 川 筏 ちりちり 松 川 筏
 苔 筵 山 姥 の もろもろ ちりちり 山 姥 の もろもろ ちりちり 山 姥 の もろもろ
 曉 更 鷄 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世
 夜 涙 餘 袖 夕暮 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世
 宗 天 祝 早 暮 の 世 ちりちり 早 暮 の 世 ちりちり 早 暮 の 世 ちりちり 早 暮 の 世
 磯 浪 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世
 釋 教 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世

夕暮

雲 浮 野 水 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世
 湊 頭 旅 泊 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世
 半 夜 旅 泊 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世
 碇 夕暮 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世
 羈 旅 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世 ちりちり 夕 暮 の 世

竹

朝夕の竹の影をうけては 月影のまはるる

しのびゆく 竹の影をうけては 月影のまはるる

旅宿憶都

旅宿を憶ふ都の月影のまはるる

山亭人稀

山亭に人稀なる月影のまはるる

嶺林猿叫

嶺林に猿の叫ぶ月影のまはるる

猿

猿の叫ぶ月影のまはるる

太山木枝の影をうけては 月影のまはるる

太山木枝の影をうけては 月影のまはるる

太山木枝の影をうけては 月影のまはるる

釣渾火

釣渾火の影をうけては 月影のまはるる

子林

老愁年

老愁年七十の月影のまはるる

社頭秋

社頭の秋の月影のまはるる

古寺鐘

古寺の鐘の月影のまはるる

暮林鳥

暮林の鳥の月影のまはるる

関 鷄

関の鷄の月影のまはるる

旅宿寐覚

旅宿を寐覚の月影のまはるる

松 山

松山の月影のまはるる

松山の月影のまはるる

松山の月影のまはるる

松 檜

松の檜の月影のまはるる

寄枕雑

寄枕雑の下の松の下の松の下の松

寄苔雑

寄苔雑の下の松の下の松の下の松

寄船雑

寄船雑の下の松の下の松の下の松

路

路の下の松の下の松の下の松

浪洗岩苔

浪洗岩苔の下の松の下の松の下の松

巖頭苔

巖頭苔の下の松の下の松の下の松

松老洞底

松老洞底の下の松の下の松の下の松

薄暮松

薄暮松の下の松の下の松の下の松

名所松

名所松の下の松の下の松の下の松

同

山館竹

山館竹の下の松の下の松の下の松

忘竹

忘竹の下の松の下の松の下の松

山家風

山家風の下の松の下の松の下の松

山家歎

山家歎の下の松の下の松の下の松

山家夕

山家夕の下の松の下の松の下の松

山村烟細

山村烟細の下の松の下の松の下の松

山家人稀

山家人稀の下の松の下の松の下の松

田家

田家の下の松の下の松の下の松

田家鳥 枝の田のさくらをのりてかきまはるる
 江の田のさくらをのりてかきまはるる
 さくらをのりてかきまはるる
 田家真 荊木田のさくらをのりてかきまはるる
 さくらをのりてかきまはるる
 さくらをのりてかきまはるる
 田家見鶴 あらゆるさくらをのりてかきまはるる
 さくらをのりてかきまはるる

さくら

寄杜旅 枕もさくらをのりてかきまはるる
 羈中衣 荊木田のさくらをのりてかきまはるる
 羈旅雨 あらゆるさくらをのりてかきまはるる
 旅泊 いまもさくらをのりてかきまはるる
 旅泊夢 さくらをのりてかきまはるる
 泊雨滴蓬 さくらをのりてかきまはるる
 江雨 さくらをのりてかきまはるる
 瀧邊鳥 さくらをのりてかきまはるる

舟鳥叢書

海邊鳥 うかづきしづきの入江の浪は流るるるるの村の
 山家鳥馴 鳥さくふくふくせとせとせとせとせとせとせとせと
 薄暮迷懷 夕ななほの霞かきかき霞の波のしづるの下の糸
 空風迷懷 我月の影さすまゝにさすまゝにさすまゝにさすまゝに
 空水懷旧 月と水と水と水と水と水と水と水と水と水と水と水と
 空春懷旧 ささげささげささげささげささげささげささげささげさ
 孤夢易驚 竹の影さすまゝにさすまゝにさすまゝにさすまゝに
 短 夢 ささげささげささげささげささげささげささげささげさ
第一本 ささげささげささげささげささげささげささげささげさ
第二本 ささげささげささげささげささげささげささげささげさ
第三本 ささげささげささげささげささげささげささげささげさ

古人談夢 月と水と水と水と水と水と水と水と水と水と水と水と
 朝觀無常 是もけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 上陽人 ささげささげささげささげささげささげささげささげさ
 山 柳 ささげささげささげささげささげささげささげささげさ
 神 祇 俗人の神さすまゝにさすまゝにさすまゝにさすまゝに
 ささげささげささげささげささげささげささげささげささげさ
 ささげささげささげささげささげささげささげささげささげさ
 ささげささげささげささげささげささげささげささげささげさ

丹鳥集書

社頭水 社頭松 寄神祝 寄水釈教 嶺上曉雲 往事如夢
 社頭水 社頭松 寄神祝 寄水釈教 嶺上曉雲 往事如夢

丹雀

往事 草庵 夜雨 麓柴 路芝 門松
 往事 草庵 夜雨 麓柴 路芝 門松

山中滝音

葉ナシ
あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

淵亀

川のまはるはまはるはまはるのまはるのまはる

樵路暮

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

樵夫

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

嶺

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

雲

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

胸消是非

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

心静延壽

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

夏衣

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

夏窓

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

夏窓

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

夏船

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

夏棹

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

舟中遊女

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

岸上傀儡

あはれあはれあはれのまはるは降るは降る谷のまは

丹鳥長書

冬 擲 黒髪くろかみのこをかくはらふておもいふはらいのまつりのしらべのかみを
冬 鏡 小鏡こがまのかみを 妻つまのかみを 鏡かみのかみを 鏡かみのかみを
冬 莖 小莖こがしのかみを 莖かみのかみを 莖かみのかみを
冬 衣 小衣こがしのかみを 衣かみのかみを 衣かみのかみを
冬 鐘 小鐘こかねのかみを 鐘かねのかみを 鐘かねのかみを
冬 夢 小夢こゆめのかみを 夢ゆめのかみを 夢ゆめのかみを
冬 舟 小舟こふねのかみを 舟ふねのかみを 舟ふねのかみを

冬 市 小市こいちのかみを 市いちのかみを 市いちのかみを
冬 旅 小旅こりょのかみを 旅りょのかみを 旅りょのかみを
冬 祝 小祝こいわいのかみを 祝いわいのかみを 祝いわいのかみを
冬 人事 小人事こにんじのかみを 人事にんじのかみを 人事にんじのかみを
冬 曉夢 小曉夢こぎょうむのかみを 曉夢ぎょうむのかみを 曉夢ぎょうむのかみを
冬 雜物 小雜物こざぶつのかみを 雜物ざぶつのかみを 雜物ざぶつのかみを
春 床 小床ことこのかみを 床とこのかみを 床とこのかみを
春 送 小送こくりのかみを 送くりのかみを 送くりのかみを
春 舟 小舟こふねのかみを 舟ふねのかみを 舟ふねのかみを

秋 鐘 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 秋 笛 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 秋 夢 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 秋 人事 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 月前遠惜 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 月前眺望 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 月前幽情 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 夏 車 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 夏 旅 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 夏山家 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を

夏 枕 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 夏 懐 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 夏 述懐 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 夏 閨枕 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 羈中川 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 橋 苔 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 古寺路 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 松年久 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 寺 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を
 山寺鐘 夕の鐘の音はしほくはあはれし秋ののどかなる秋を

野寺鐘 鐘をきくまのほらさきかゝるを乃とみよの神
 古寺燈 九の枝の光をきく花のうらをみよの神
 朝海路 友舟ちゆくをねねの舟ちゆくをみよの神
 江雨鷺飛 あまつみよの川の子松はるなを鷺と群り
 白鷺立洲 ちきよの海の子をよの海の子をよの川
 流せよの海の子をよの海の子をよの川
 曉見漁舟 雲の海の子をよの海の子をよの川
 嶺松 かゝる松の子をよの海の子をよの川
 山家水 ゆなを松の子をよの海の子をよの川
 河藻 くの海の子をよの海の子をよの川

六ノ五十

遠村鶏 雲の海の子をよの海の子をよの川
 関路鶏 十七英 雲の海の子をよの海の子をよの川
 曉旅泊 雲の月の子をよの海の子をよの川
 旅泊 雲の月の子をよの海の子をよの川
 旅宿 雲の月の子をよの海の子をよの川
 古郷 雲の月の子をよの海の子をよの川
 懷旧淚 雲の月の子をよの海の子をよの川
 夕雨 未 雲の月の子をよの海の子をよの川
 島眺望 雲の月の子をよの海の子をよの川

島松海にまきし花は花にせんとてはるかに
 雲居鶴とてはるかにせんとてはるかに
 披書知昔紙の海にまきし花は花にせんとてはるかに
 市高客あまの市高客あまの市高客あまの市高客
 夕述懐あまの夕述懐あまの夕述懐あまの夕述懐
 水郷舟はるかにせんとてはるかに
 祝言あまの祝言あまの祝言あまの祝言

子林

經文部奇

西岡海平寺の僧正廣經小本
 のち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かの
 いく南無觀世音菩薩の南無觀世音菩薩の南無觀世音菩薩の
 のち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かの
 のち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かの
 のち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かの
 のち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かの
 のち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かののち乃まき水亭の年かの

丹雀書

序
 品
 旧
 懐
 方便品
 懐
 譬喻品
 信解品
 懐
 藥草喻品
 授記品
 化城喻品
 懐
 五百弟子品

序
 品
 旧
 懐
 方便品
 懐
 譬喻品
 信解品
 懐
 藥草喻品
 授記品
 化城喻品
 懐
 五百弟子品

人記品 おりあめいんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 法師品 かゝりいんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 寶塔品 ていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 懷 旧 ていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 提婆品 たていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 勧持品 けんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 安樂行品 あんらくていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 湧出品 ゆうしゅていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 懷 旧 こんごうていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 壽量品 じゆうりやうていんていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
本の一ノ

子抄

分別功德品 ぶんべつこうとくひん あまじんあまのぢのていんていんていんていんていんていん
 随喜功德品 ずいきこうとくひん ていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 法師功德品 ほふしこうとくひん ていんていんていんていんていんていんていんていん
 懷 旧 かいじゅうていんていんていんていんていんていんていんていんていんていん
 不輕品 ぶけいひん ぶけいんていんていんていんていんていんていんていんていん
 神力品 しんりきひん ていんていんていんていんていんていんていんていん
 囑累品 じゆらいひん ていんていんていんていんていんていんていん
 藥王品 やくおうひん ていんていんていんていんていんていん
 妙音品 せういんひん ていんていんていんていんていん
 懷 旧 かいじゅうていんていんていんていんていん
本一ノ

丹鶴書

普門品 二十のまのついでに
 陀羅尼品 代わりの法を
 嚴王品 あつては
 勸發品 おつては
 懷 旧
 永享六年十月十日
 序 品
 分別功德品 梅担三精舎 以園林莊嚴
 囑累品

陀羅尼品 十羅刹女

あつて十のまのついでに
 同九年五月五日
 了

序 品 九代のむのまのついでに
 安樂行品 若於夢中但見妙事

藥王品 如渡得船

普門品 聞名及見身 心念不空過

懐

十月廿三日の夜に
多岐の山に宿す
赤吉二年卯月十日
八品を授けし

勸發品

當於今世得現果報

我々も此の世に

夏懐旧

文安元年の秋常光院亮孝父の亮阿二十三日
の追善を授けし

金剛經

不受不貪の心を

秋懐旧

寛治二年五月十二日
年の追善の爲に法花廿八品を授けし

見寶塔品

撰諸大衆 皆在虚空

懐

旧 此の浦の世の
享徳元年三月三日
品勅を授けし

提婆品 信く南のなるよつたりのあつたりのあつたは

懐 旧 せんせん人の信ふふあせあせのあつた

同三月四月十日人のあつた

化城喻品 思ふあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

同十月四日人のあつた

勧發品 少欲知足

一枝よりのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

同二月六月十八日武田大信賢末廿四日普光院

の信ふふ維摩十喻の内にあつた

是身如泡 しくせし同くはあつたのあつたのあつたのあつた

子祐

懐 旧 日本のあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

同三月八月四日細川右京大夫勝元は源のあつた

同追若のあつた品性一本あつたのあつた

陀羅尼品 令得安穩 離諸衰患

ちあつたのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

懐 旧 あつたのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

康正元年五月廿七日伊勢守守貞親入道真蓮故一本

回くあつたのあつた

阿弥陀經のあつた

あつたのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

夏懐旧 たひ一本

同九月朔日冷泉侍従政為親父大納言持為乃一回

〜一品經き〜

涌出品 後 たひ一本

懐旧 有注一本 同十月廿三日日野大納言勝光父の十二回は法華廿

八品を將軍家を始め たひ一本

囁累品 同二月九月冷泉侍従故大納言三回追 たひ一本

懐旧 同二月九月冷泉侍従故大納言三回追 たひ一本

同二月九月冷泉侍従故大納言三回追 たひ一本

子孫

中ふ

陀羅尼品 同十一月二日

序 品 長祿元年十二月二日

長祿元年十二月二日持原盛隆 たひ一本

〜一品經き〜

勸蒞品 當越遠近 當如敬佛

哀傷 有注一本

同二月十月十六日細川右馬治道賢故岩栖院道親廿

子孫

子孫

三回く品経勅をさく
陀羅尼品 無諸衰患

懐 旧 おもむき品
同

信解品
懐 旧

おとな

授記品

懐 旧

子格

人の勅をさく

随喜功德品 世皆不牢固 如水沫泡焰

懐 旧

六
雀
集
書

六ノ五十九止

子
格

